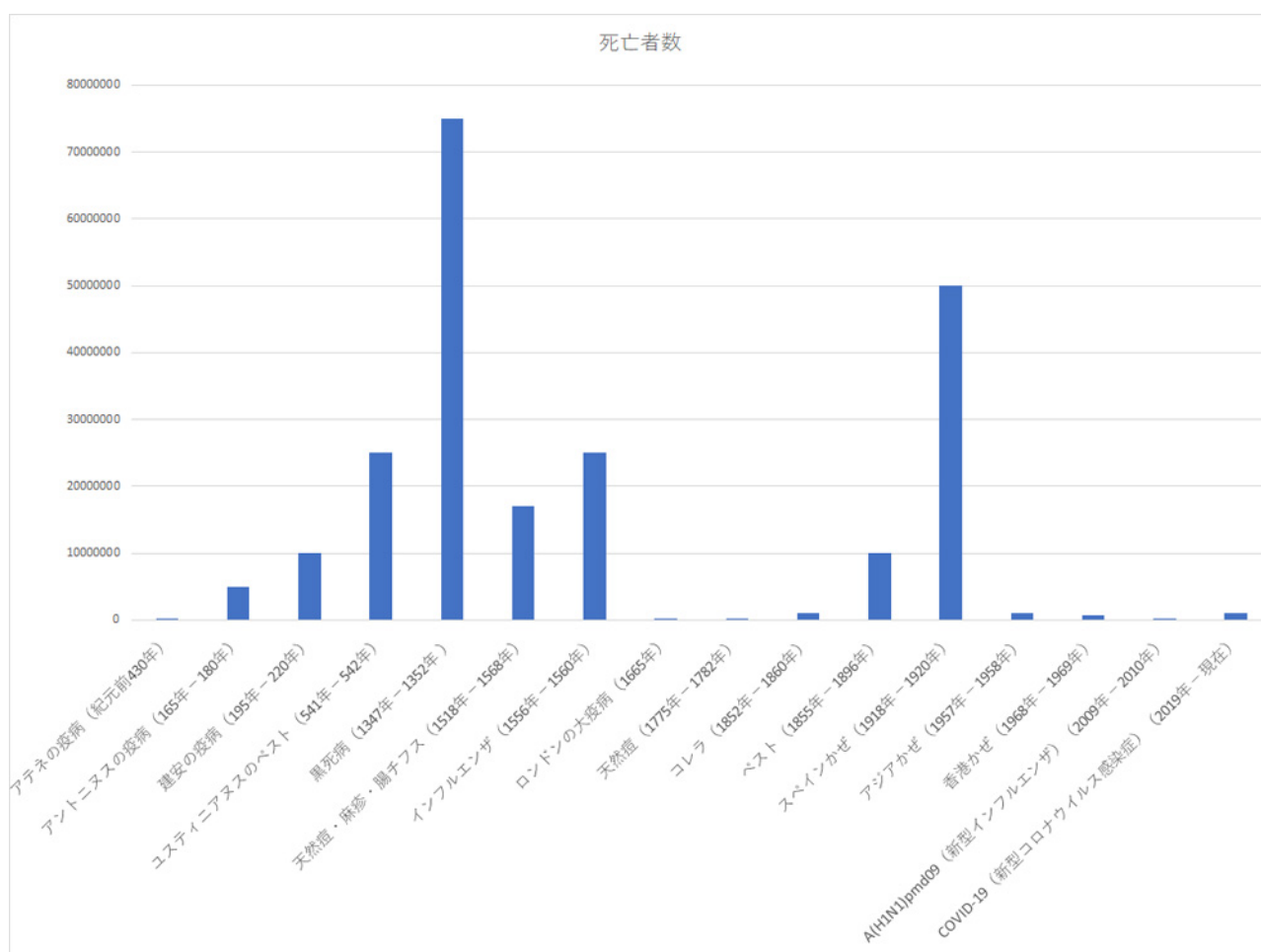


パンデミックとインテリジェンス

1 パンデミックとインテリジェンスの問題群

- ① 地球史 46 億年、微生物史 40 億年、多細胞生物 12 億年、人類史 20 万年——人獣共通
- ② 人類の移動と交通——局地的風土病の感染症化、細菌・ウィルスの宿主共生
古代 ローマ帝国シリア遠征天然痘、中世モンゴル西進 14C 黒死病ペスト、16C 新大陸梅毒、19C インド交易コレラ、1918-20 アメリカ第一次大戦参戦スペイン風邪
- ③ Endemic 風土病 Epidemic 地域感染 Pandemic 世界的大流行←自然生態系・生物多様性変化・気候変動、交易・征服・戦争、都市化・開発、帝国主義・グローバリズム



- ④ 伝染病・感染症対策 細菌バクテリア 1859 パスツール、コッホ、1892 ウィルス
防疫：抗菌薬ペニシリン等、免疫、ワクチン（抗体免疫）、予防接種、交差免疫
14C 検疫 quarantine・防疫隔離、公衆衛生 古代ローマ上下水道・疾病検査治療・ゴミ処理等
→ロックダウン等大きな社会経済変動→国民国家毎の多様性→Green Recovery
- ⑤ 生物兵器（貧者の最終兵器） 敵壊滅・撓乱、恐怖と社会不安醸成、志気喪失
古代アテナイ軍の有害植物水源投下、東ローマ帝国 昆虫・蜂・サソリ爆弾
1384 モンゴル軍のペスト患者死骸投下、1763 ポンティアックの反乱原住民天然痘
1925 ジュネーヴ議定書で使用禁止（研究は可）、1975 生物兵器禁止条約

⑥ パンデミック WHO:2009 年 4 月 29 日発表の文書に基づく警戒レベル

フェーズ 1 動物の中で循環しているウイルスがヒトにおいて感染を引き起こしたとの報告がない状態。

フェーズ 2 ヒトに感染を引き起こしたことがわかっているインフルエンザウイルスが家畜または野生の動物の間で循環しており、潜在的なパンデミックの脅威であると考えられる状態。

フェーズ 3 動物インフルエンザまたはヒト-動物のインフルエンザの再集合ウイルスがヒトにおいて散発例小集団集積症例が見られるが、コミュニティレベルでのアウトブレイクを維持できるだけの十分なヒト-ヒト感染伝播を起こしていない状態。

フェーズ 4 動物インフルエンザまたはヒト-動物のインフルエンザの再集合ウイルスがコミュニティレベルのアウトブレイクを引き起こすことが確認された状態。コミュニティでの持続的感染ができる能力を獲得したことは、パンデミックに対するリスクが高まっていることを意味する。

フェーズ 5 1 つの WHO 地域の少なくとも 2 つの国でウイルスのヒト-ヒト感染拡大があることである。多くの国々はこの段階では影響を受けていなが、フェーズ 5 の宣言は、パンデミックが目前に迫ったものであることを示す強い警告である。

フェーズ 6 フェーズ 5 に定義された基準に加え、WHO の異なる地域において少なくとも他の 1 つの国でコミュニティレベルでのアウトブレイクがある状態。このフェーズが指定されることは、世界的なパンデミックが進行中であることを示す。

⑦ 米国保健福祉省 CDC (疾病予防管理センター、1992—、15500 人) による生物兵器の格付け

[米国 CDC](#) では生物兵器として利用される可能性の高い病原体のリスクを以下のように格付け。

カテゴリー A 最優先の病原体で、以下の理由から国の安全保障に影響を及ぼす。

- 容易に人から人へ伝播される。
- 高い致死率で[公衆衛生](#)に大きなインパクトを与える。
- 社会にパニックや混乱を起こすおそれがある。
- 公衆衛生上、特別の準備を必要とする。

ここに分類される病原体は[炭疽菌](#)、[ペスト菌](#)、[ボツリヌス菌](#)、[野兎病菌](#)、[天然痘ウイルス](#)、各種[出血熱](#)ウイルス (Cf. 中国武漢ウイルス研究所は米国国立衛生研アレルギー感染研等とも共同研究)。

⑧ 陸軍 フォート・デトリックでは、1943 年から 1969 年にかけてアメリカ合衆国生物兵器プログラムの中心施設として生物兵器の開発や実験、生産が行われた。1946 年頃から旧日本軍の 731 部隊による実験資料が持ち込まれた。最初の本格的な活動は炭疽菌の大量培養で、次いでブルセラ菌・野兎病菌の培養のための建物が建設された。1943 年 8 月から 1945 年 12 月までに、ハツカネズミ 60 万頭・モルモット 3 万頭・サル 166 頭を含む 17 種類の動物が使用された。1950 年、容量 1000m³ の球形の大型実験設備「エイトボール」(8-Ball、en:One-Million-Liter Test Sphere) が完成、野兎病菌を詰めた爆弾の最初の実験が行われ、次いで炭疽菌の実験が行われた。2000 頭のアカゲザルがこの実験に用いられた。1969 年以降はアメリカ陸軍感染症医学研究所 (USAMRIID) が設置され、対生物兵器・生物テロの防護研究を行っていると言われる。

同研究所は、バイオセーフティーレベル 4 (BSL4)の高度な設備を持ち、世界的にも知られている。防護研究用として、現在でも少量の生物兵器が配備されている。

2001 年のアメリカ炭疽菌事件は、当時炭疽菌ワクチン開発チームのリーダーだったブルース・イビンズによるものとされ、2008 年に訴追される前に自殺して事件は終結した。2001 年 9 月 18 日と 10 月 9 日の二度にわたり、アメリカ合衆国の大手テレビ局や出版社、上院議員に対し、炭疽菌が封入された容器の入った封筒が送りつけられたバイオテロ事件で、5 名が肺炭疽を発症し死亡、17 名が負傷した。イビンズは、捜査機関に対し捜査協力を行っていた米炭疽菌研究の第一人者の科学者であったが、一方でジョージ・W・ブッシュの再選を望む熱心な共和党の支持者であり『ユダヤ人は選民である』として、ラビとムスリムの対話を否定する過激なキリスト教原理主義者（クリスチャン・シオニスト）という裏の顔があり、犯人とすれば動機は明確であった。Cf. 1948 帝銀事件

⑨ パンデミックとインテリジェンス

感染源、検疫、感染度、感染対策、治療薬・ワクチンをめぐる情報戦——米中感染源論争
WHO、出入国管理、ロックダウン、人権制限、緊急令、ワクチン利権の国際競争
政治体制、リーダーシップ、医療政策、国民統合、政治と科学の実績競争、格差拡大
情報管理・AI デジタル化、危機管理・メディア支配・世論誘導のインテリジェンス
国家利益、産学軍複合体、逸脱行動規制、国家安全保障、インテリジェンス・コミュニティ
軍隊・警察・公安部隊・政治指導者の防疫、「国家機密」としての保健・感染・生物兵器

⑩ 歴史的事例からの学び方

1918-20 年「スペイン風邪」 第一次大戦米兵士起源説・中国人労働者説、ロシア革命とスヴェルドルフ全露中央委員長、マックス・ウェーバー、ウィルソンとベルサイユ体制、原敬と米騒動衰退、島村抱月・与謝野晶子、マスク不足・サンフランシスコ市マスク条例、
第二次大戦時日本の関東軍防疫給水部（731 部隊・100 部隊）の人体実験・細菌戦隠蔽、米ソの 731 データ獲得競争、米軍とのバーターでの免責・復権、伝研から感染研・医科研へ
1981AIDS (HIV)、2003SARS、2012MERS、2009 新型豚インフルエンザ、2019 エボラ出血熱

2 インタールード 映画「スパイの妻」(ネチズンカレッジ 2021. 1)

<http://netizen.html.xdomain.jp/home.html>

(you tube: <https://www.youtube.com/watch?v=EAclpuJ8E9I>)

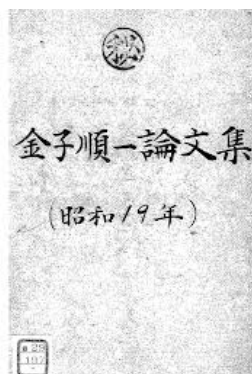
映画「スパイの妻」を見ました。黒沢清監督の、ヴェネツィア国際映画祭銀獅子賞（監督賞）受賞作です。主演の蒼井優、高橋一生の演技もさることながら、時代考証に監督の想いが感じられました。あらすじに「1940 年、神戸で貿易会社を営む福原優作は、満州で国家機密に関わる衝撃的な光景を目にしてしまう。正義感に駆られた優作はその事実を世界に公表しようと決意するが、スパイとして疑われることになる」とありますが、冒頭で優作の取引相手の神戸の英国人貿易商が憲兵隊に検挙されます。これは、ゾルゲ事件の研究者ならピンとくる「外諜」取締、「コックス事件」の一環です。

コックス事件とは、「1940 年 7 月 27 日に、日本各地で在留英国人 11 人が憲兵隊に軍機保護法違反容疑で一斉に検挙され、7 月 29 日にそのうちの 1 人でロイター通信東京支局長の M.J.コ

ックスが[東京憲兵隊](#)の取り調べ中に憲兵司令部の建物から飛び降り、死亡した事件。同日、日本の[外務省](#)が英国人の逮捕とコックスの死亡を発表し、死因を自殺と推定した」ものです。11人の英国人検挙者の中に神戸の貿易商フレイザー・アンド・カンパニーの大阪・神戸支店長J.F.[ドラモンド \(Drummond\)](#) も入っていました。翌年の[ゾルゲ事件摘発](#)につながる外国人ジャーナリスト監視・弾圧強化、太平洋戦争開戦時の「敵国外国人」一斉検挙、「外人を見たらスパイと思え」の戦時国民運動につながります。コロナ禍の「自粛警察」、感染者・外国人・医療従事者・エセンシャルワーカーへの理不尽な差別を想起させます。

◆ 貿易商の主人公が満州・新京への出張旅行で見た「国家機密に関わる衝撃的な光景」とは何だったのでしょうか。映画の解説にも劇場用パンフレットにも一言も出てきませんが、これは 731 部隊・100 部隊の研究者でなくても、森村誠一『悪魔の飽食』を読んだ人なら、すぐに気がつくでしょう。ハルビン郊外平房に本部をおいた関東軍防疫給水部 731 部隊の人体実験・細菌戦のことです。映画では女性勤務員の日記・証言とおぞましい映写フィルムを持ち帰ったことが軍機保護法違反、「スパイ」とされて主人公が検挙され拷問を受けますが、実際、石井四郎 731 部隊長は、人体実験を撮影した映画を満州現地や日本本土の講演等で使っていました。1940 年の夏には、農安・

新京でペストが発生しました。当時は自然感染とされていましたが、今日では日本側・中国側からの研究で、[731 部隊による人為的ペスト菌撒布の細菌戦の結果](#)とされています。731 部隊軍医金子順一が、戦後に伝染病研究所に勤務し[東大の医学博士論文とした実験記録](#)が、動かぬ証拠となりました。



第1表 既往作戦効果概見表								
攻撃	目標	PX kg	効果		1. 0 kg 換算値			
			一次	二次	Ror	Ro	Cep	
15. 6. 4	農安	0. 005	8	607	1600	123, 000	76. 9	
15. 6. 4~7	農安大賓	0. 010	12	2424	1200	243, 600	203. 0	
15. 10. 4	衛県	8. 0	219	9060	26	1, 159	44. 2	
15. 10. 27	寧波	2. 0	104	1450	52	777	14. 9	
16. 11. 4	常德	1. 6	310	2500	194	1, 756	9. 1	
17. 8. 1 9 ~21	廣信廣豊玉山	0. 131	42	9210	321	22, 550	70. 3	

金子順一は、石井四郎等他の 731 部隊幹部と同様に、米国占領軍にデータを提供して戦犯訴追をまねがれ、武田薬品に勤務しました。この「国策」731 部隊医学・医薬産業の伝統が、伝染病研究所から再編された現在の国立感染症研究所と東大医科学研究所等に受け継がれ、昨年来の新型コロナウイルス対策でも、政府の「専門家会議」「分科会」を通じた感染データ独占、「国策」オリンピックや「健康・医療戦略」を付度した政府・厚労省への「助言」、治療薬・ワクチン政策等に連なっているのではないか、というのが昨年公刊した[拙著『パンデミックの政治学——「日本モデル」の失敗』](#)（花伝社）の問題提起です。



私の見るところ、黒沢清監督の映画「スパイの妻」は、故黒澤明監督作品の中では、ヴェネツィア国際映画祭受賞作「羅生門」や「七人の侍」よりも、[1946 年の作品「わが青春に悔いなし」](#)を想起させます。「スパイの妻」の描いた 1940 年は「紀元 2600 年」で、日独伊枢軸で世界から孤立し、「神武天皇建国祭」に合わせて計画され決まっていた「[東京オリンピック](#)」も「[万国博覧会](#)」も中止に追い込まれた、日中戦争泥沼化と日米開戦前夜でした。その時代に、日本の科学技術は、「戦時体制」の名で「国策」への「奉公」を強いられました。医学・獣医学・薬学・理学等は「大東亜医学」「最終兵器」の名で国際法違反の生物化学兵器製造に向かい、中国人・ロシア人・朝鮮人等の「抗日分子＝マルタ」を細菌戦・毒ガス戦のための人体実験に使いました。

法学・政治学・経済学・教育学等は、共産主義・マルクス主義を「黴菌」「ウィルス」と見なして撲滅を図り、戦時体制構築・外来思想排撃の思想・情報統制に支配されました。治安維持法改悪ばかりでなく、軍機保護法・国防保安法などで神がかりの「[日本法理](#)」を作り、自由主義や神道以外の宗教も取締と弾圧の対象にしました。そんな時代への足音が、安倍内閣の下で教育基本法改悪から特定秘密保護法・新安保法・組織犯罪処罰法、国家安全保障会議（NSC）・内閣人事局設置、集团的自衛権と日米防衛体制強化と聞こえてきて、菅内閣の新型コロナ対策と東京オリンピック強行のために、いっそう強まっています。日本学術会議の会員任命拒否は、官僚制掌握とメディア支配を前提にしての、新たな第一歩でした。

3 731 部隊の亡霊としての感染研・専門家会議のデータ独占・「日本モデル」の失敗

旧内務省 1938 厚生省 小泉親彦、戸山町陸軍軍医学校 内藤良一、陸軍省軍務局 新妻清一

731 部隊（関東軍防疫給水部） 石井四郎、100 部隊（軍馬防疫廠）若松有次郎

「防疫」名目の細菌戦研究——「マルタ」相手の人体実験 3000 人、ペストノミ爆弾被害者数万人

国際法違反の痕跡隠蔽（有末・服部）、G2 ウィロビーに庇護され実験データとパートナーの免責

PHW サムスに依拠した 731 医学・医師の厚生省を通じた 6 つの復権ルート + 獣医学・薬学・農学

- ① 広島・長崎原爆調査 ABC C、予研→放影研
- ② 伝染病・感染症対策 北里研・東大伝研→伝研・医科研と予研・感染研、保健所
- ③ 医学教育・医学部再編 公衆衛生・生理学・薬学等 学術会議 7 部・厚生省審議会
- ④ 病院・医院改革 旧軍医は開業医・勤務医に、自衛隊衛生学校・防衛医大
- ⑤ 医薬産業・医療ビジネス 日本ブラッドバンク→ミドリ十字、大手薬品会社、医療機器・検査等
- ⑥ 米軍 406 細菌戦部隊 朝鮮戦争、日本実験動物研究所・モンキーセンター

●100 部隊獣医学の農林省・日本獣医学会・獣医師会等を通じた継承（→加計学園問題）

新自由主義医療改革、安倍内閣アベノミクス成長優先「健康・医療戦略」、感染症マイナー化（の下でのダイヤモンド・プリンセス対応、和泉・大坪）、高度最先端医療・ゲノム解析・ワクチン国産へ

新型コロナ対策——感染研・専門家委員会・分科会・有識者会議、「ワクチン村」予算独占

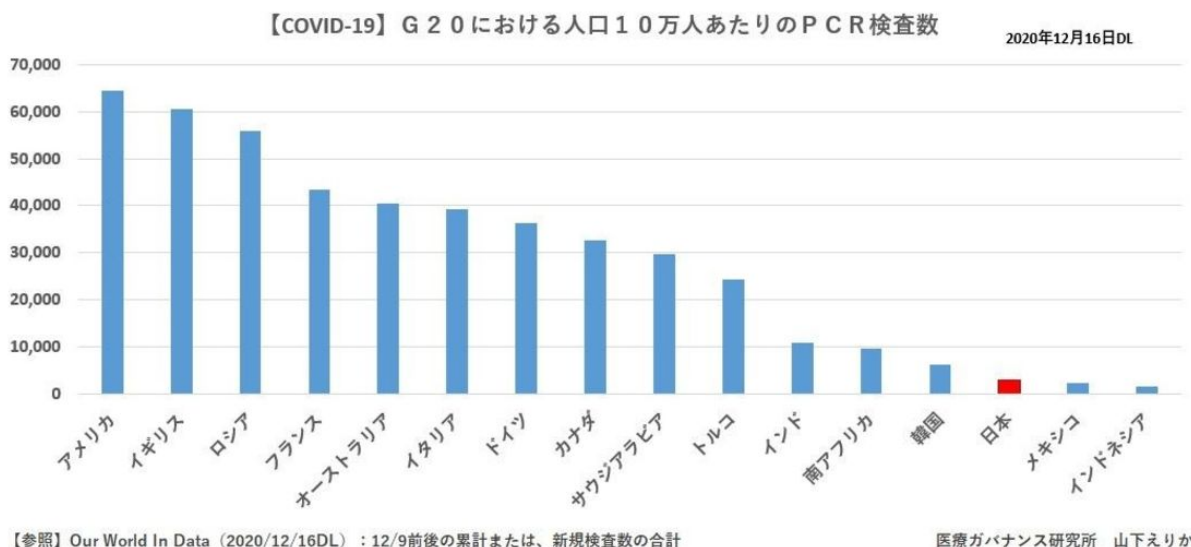
- ① 感染研（731 部隊・伝研・予研）
- ② 東大医科研（伝研直系）
- ③ 国際医療研究センター（旧陸軍病院）
- ④ 慈恵会医科大学（旧海軍）、の 4 機関出身・関係者中心の感染症対策

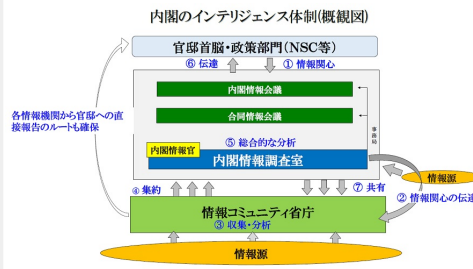
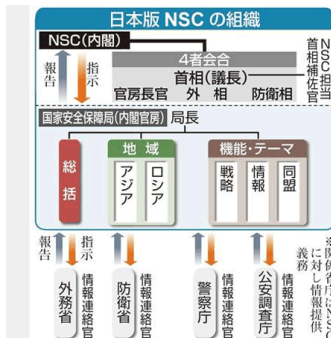
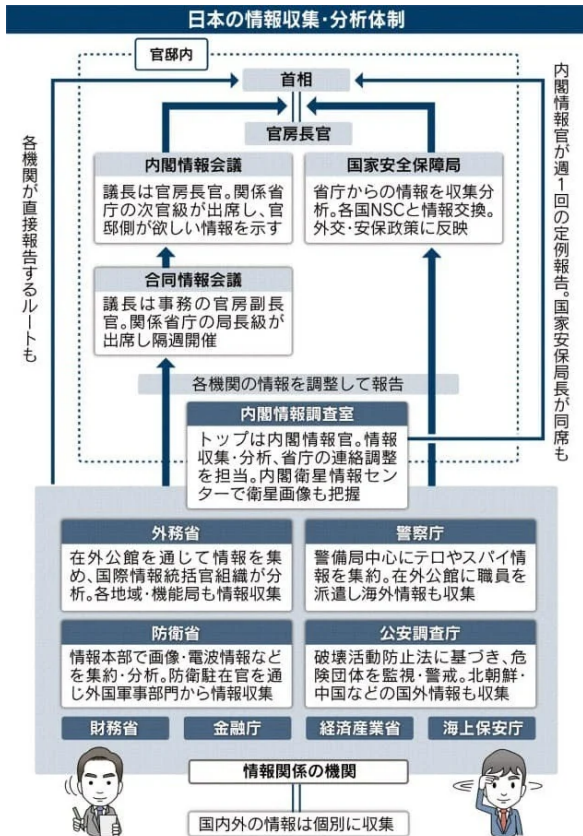
日本モデル ①PCR 検査限定・クラスター方式と感染研・保健所の「行政検査」データ独占体制
②閉鎖的・秘密主義の日本感染症医学の衰退（サンプル数・論文数の貧困）

（参考）加藤『「飽食した悪魔」の戦後』『731 部隊と戦後日本』『パンデミックの政治学』（花伝社、2018-20）、上昌広『日本のコロナ対策はなぜ迷走するのか』（毎日新聞、2020）

児玉龍彦 [you tube 提言「コロナオーバーシュートに立ち向かう」](#)

上昌広「帝国陸海軍の「亡霊」が支配する新型コロナ「専門家会議」に物申す」『フォーサイト』







内閣官房 Cabinet Secretariat					サイトマップ
トップページ	内閣官房の概要	所管法令	記者会見	報道発表	資料集
政策課題	国会提出法案	パブリックコメント等	情報公開・公文書管理	調達情報	リンク

[トップページ](#) > [内閣官房の概要](#) > [幹部紹介](#)



内閣情報官

きたむら しげる

北村 滋

生年月日 昭和31年12月27日

出身 東京都

経歴

昭和55年 4月 警察庁採用

平成元年 3月 警視庁本富士警察署長

平成4年 2月 在仏日本国大使館一等書記官

平成7年 3月 警察庁警備局外事課理事官

平成8年 4月 同 警備局警備企画課理事官

平成9年 7月 同 長官官房総務課企画官

平成14年 8月 徳島県警察本部長

平成16年 4月 警察庁警備局警備課長

平成16年 8月 同 警備局外事情報部外事課長

平成18年 9月 安倍内閣総理大臣秘書官

平成21年 4月 兵庫県警察本部長

平成22年 4月 警察庁警備局外事情報部長

平成23年10月 同 長官官房総括審議官

平成23年12月 内閣情報官

